

健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会 自己評価シート

プラン名	飛騨高山・間伐材テク作戦～宿讎の森プロジェクト			作成日	21 年	11 月	13 日
実施方法	☐ 単独	☒ JV	所属	飛騨高山森林組合	記入者	山本茂樹	
プロジェクトの対象・目的・内容	対象（誰を、何を）		目的（どういう状態にしたいのか）				
	◎利用適期にある森林資源 ◎間伐未実施の人工林 ◎森林境界の不明確化 ◎路網の未整備 ◎林産の機動体制		◎高密度路網整備（目標ha当たり100m） ◎森林所有者の森林整備意欲の回復 ◎利益還元出来る施業プランの提示と実施 ◎計画的な森林整備の実施及び境界確認の実施 ◎利用間伐を主体とした機動体制の確立と技術修得 ◎林業事業体との連携				
	事業内容（どのような方法で、何を行うのか）						
	◎地域座談会の開催、個別訪問、現地説明会等集約化を図る。 ◎ 高密度路網整備による低コスト利用間伐。 ◎各地域の林業グループ等の視察を受け普及啓発活動。 ◎環境影響評価対応（水の濁度調査）。 ◎ 森林所有者への還元を図り、森林に対する関心を高めて貰い地域林業の活性化に繋げる。						
事業期間	平成 20 年度 ～ 平成 24 年度（ 5 年間）						
事業費 / 年度	モデル団地への国・県・市町村補助金投入額（平成20年度決算） ※職員人件費を除く						
	森林整備関係	搬出補助関係	機械導入関係	治山関係	保安林整備関係	その他	
予算執行額（千円）	92,986.0	76,350.0	49,625.0	0.0	0.0	84,775.0	
財源内訳	国・県費	81,862.0	1,350.0	23,755.0			74,375.0
	市町村費	11,124.0	75,000.0				10,400.0
	一般財源			25,870.0			
	その他						
事業実績	成果指標		単位	20年度		21年度	
				計画	実績	計画	進捗
	①	施業集約化	ha	108.0	85.0	114.0	20.0
	②	植栽	ha				
	③	下刈・除伐	ha				
	④	切捨間伐	ha	15.0		30.0	0.0
	⑤	利用間伐	ha	15.0		45.0	1.0
	⑥	主伐	ha				
	⑦	作業道開設（延長） w= 3.0 / 3.6 m	m	1,500 / 1,500	3,000 / 2,843	1,000 / 3,500	0 / 3,000
	⑧	作業道開設（開設コスト） w= 3.0 / 3.6 m	円/m	2,000 / 3,000	2,000 / 3,000	2,000 / 3,000	0 / 3,000
	⑨	木材生産量（モデル団地内）	m³	900.0	1,360.0	2,700.0	80.0
	⑩	木材生産量（モデル団地外）	m³	200.0	0.0	200.0	1,000.0
	⑪	木材生産性	m³/人日	3.5	4.0	4.0	4.0
	⑫	木材生産コスト（伐採～積込まで）	円/m³	9,000.0	9,000.0	9,000.0	9,000.0
	⑬	高性能林業機械導入	台	3.0	3.0	0.0	0.0
	⑭	伐採専門チーム養成	チーム	1.0	1.0	0.0	0.0
	⑮	視察研修の受入	回	1.0	5.0	1.0	4.0
	⑯	森林施業プランナーの育成	人	1.0	1.0	0.0	0.0
	⑰	地域イベントでの普及啓発	回	1.0	3.0	1.0	3.0
	⑱	各種森づくり委員会研修会	回	1.0	3.0	1.0	0.0
	⑲	飛騨建設業協会路網開設技術研修会	回	0.0	3.0	0.0	2.0
	⑳	地域座談会でのPR活動	回	10.0	8.0	10.0	10.0
	(21)	水の濁度調査	回	3.0	2.0	3.0	0.0
	(22)						
	(23)						
	(24)						
(25)							
補足説明	◎全森連主催のステップアップ研修に4名参加した。 ◎各職員それぞれの担当地区で集約化を進めながら事業地確保に努めている。 ◎各職員も森プロ団地を視察し、それぞれの担当地区で路網の配置等取り入れながら利用間伐の事業地確保に努めている。						

1	達成度	【 自 己 評 価 】			
		配点	3 点	2 点	1 点
		プロジェクトは当初計画どおり実施されているか	☒ 実施されている	☐ 一部未実施	☐ 実施されなかった
		当初設定した目標（生産コスト等）は達成したか	☐ 達成した	☒ 一部達成した	☐ 達成しなかった
		進捗管理（定点観測等）は実施されているか	☐ 実施されている	☐ 一部未実施	☒ 実施されなかった
	補足説明	◎路網開設が当初計画より順調に開設出来た。それに伴い高性能林業機械による利用間伐が進み、所有者還元も順調に出来た。 ◎作業道開設及び利用間伐も民間事業体との連携の中で計画的にスムーズに進められた。			
		【 委 員 評 価 】			
	コメント	・別添フォローアップシート参照			
2	成果	【 自 己 評 価 】			
		配点	3 点	2 点	1 点
		木材生産の拡大が図られているか	☒ 図られている	☐ 一部図られている	☐ 図られていない
		森林環境（動植物等）の改善を確認できるか	☐ 大いに確認できる	☐ 一部確認できる	☒ 確認できない
		山地災害発生を抑止する工夫ができたか	☐ 工夫できた	☒ 一部工夫できた	☐ 工夫できなかった
	補足説明	◎路線の決定には、地山勾配等に注意しながら又、路面排水は細かに素ぼりの横断溝を設けて水の分散に努めた。 ◎土質が黒土で大変軟弱で苦労したが、良質の山土砂が現地にて採取でき路面整備も上手くできた。 ◎森林整備（動植物等）の改善は確認出来なかった。今後勉強していきたい。			
		【 委 員 評 価 】			
	コメント	・別添フォローアップシート参照			
3	効率性	【 自 己 評 価 】			
		配点	3 点	2 点	1 点
		コストや業務量に見合った成果が得られたか	☐ 得られた	☒ 一部得られた	☐ 得られていない
		効率的な実施体制で推進されているか	☐ 推進された	☒ 概ね推進できた	☐ 推進できていない
		積極的に民間活力を活用しているか	☒ 活用できた	☐ 一部活用できた	☐ 活用できなかった
	補足説明	◎飛騨高山間伐JVでスタートし、路網開設から素材生産までの取組が確立された。 ◎中間土場での仕分・検知をしながら自社工場への直送システムや、県森連のネットワークセンターと連携を取り、システム販売で各工場への販売を実施し、流通コスト削減に努めた。			
		【 委 員 評 価 】			
	コメント	・別添フォローアップシート参照			
4	妥当性	【 自 己 評 価 】			
		配点	3 点	2 点	1 点
		地域住民（森林所有者）のニーズを反映しているか	☒ 反映している	☐ 一部反映している	☐ 反映していない
		プロジェクトの計画内容（箇所・時期等）は適当であったか	☒ 適当であった	☐ 一部適当でなかった	☐ 適当でなかった
		期待する人材は養成されたか（伐採専門チーム等）	☒ 養成された	☐ 一部養成された	☐ 養成されていない
	補足説明	◎各地域の林業グループの視察研修や他地域又、他県からの視察者もあり路網開設による低コスト間伐システムを理解して貰った。 ◎一番は山には道が必要だという事を理解して貰った。（道の重要性）			
		【 委 員 評 価 】			
	コメント	・別添フォローアップシート参照			

【 自 己 評 価 】				
配点		3 点	2 点	1 点
5 発展性	関係者（住民・所有者・従事者）の満足度は向上したか	☒ 向上した	☐ 一部向上した	☐ 向上しなかった
	選定委員会、研修等における指摘事項は十分対応できたか	☐ 対応できた	☒ 一部対応できた	☐ 対応できなかった
	上記以外にも成果向上のための改善余地はあるか	☒ 余地がある	☐ 一部余地がある	☐ 余地がない
	補足説明	◎所有者は作業道が開設されたことにより山の利用価値が上がり、いつでも気軽に山を見に行けるし、間伐をしてお金も入り、さらにいい山になって満足して貰っている。 ◎従事者も高密度路網により作業が安全でやりやすくなった。◎色々と改善余地はあるが、機械システムの取組等今後は、先進地視察や組合内での検討会を開催しながら、コスト削減に向けた勉強をさらにしていく。		
【 委 員 評 価 】				
	コメント	・別添フォローアップシート参照		

自 己 評 価（集計）				
評価集計	1 達成度	2 成果	3 効率性	
	6	6	7	
	4 妥当性	5 発展性	合計点	
	9	8	36	
	総合評価	B		
総合評価：A＝現状維持 B＝充実・拡大 C＝要改善 （配点区分：A＝4 5～3 6点 B＝3 5～2 6点 C＝2 5～1 5点）				
補足コメント	・別添フォローアップシート参照			

フォローアップ委員会による総評			
推奨方針（案）	☒ 現状維持	☐ 充実・拡大	☐ 要改善
コメント	・別添フォローアップシート参照		